

第1章 総 規

○公益財団法人高松市スポーツ協会定款

〔平成25年4月1日登記〕

改正 平成26年 6月26日
平成27年 4月27日 認定
平成29年 4月14日

平成30年 2月 8日 認定
令和 2年 3月13日
令和 3年 6月14日

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、公益財団法人高松市スポーツ協会と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を香川県高松市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、住民のスポーツ・レクリエーションを振興し、体力の向上を図り、生涯スポーツを推進することにより住民が広くスポーツに親しむとともに、高松市等から指定管理者としての指定を受けたスポーツ施設等を効果的、効率的に活用して豊かな人間性の涵養と健康で文化的な住民生活の実現に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の公益目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 各種スポーツ・レクリエーション教室の実施に関する事。
- (2) 生涯スポーツの推進に関する事。
- (3) スポーツ相談、スポーツ情報の収集及び提供に関する事。
- (4) 高松市等から指定を受けたスポーツ施設及び附帯施設等の管理運営並びにサービス向上に関する事。
- (5) 競技スポーツ及び地域スポーツ並びに健康・レクリエーションスポーツの振興に関する事。

- (6) 青少年のスポーツに関する活動の促進に関すること。
 - (7) スポーツに関する団体及び人材の育成に関すること。
 - (8) スポーツによる交流事業の実施及び支援に関すること。
 - (9) その他この法人の公益目的を達成するために必要な事業
- 2 この法人は、前項の公益目的事業の推進に資するため、次の収益事業等を行う。
- (1) 清涼飲料水及びスポーツ用品等の物品販売業
 - (2) 各種ガイダンス・セミナー・展示会・興行・会議等に貸与する事業
 - (3) その他前2号に掲げる事業に関連する事業
- 3 前2項に掲げる事業は、香川県高松市において行う。

第3章 資産及び会計

(財産の種類)

第5条 この法人の財産は、基本財産及びその他の財産の2種類とする。

- 2 基本財産は、この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。
- 3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

(基本財産の維持及び処分)

第6条 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

- 2 やむを得ない理由により基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を受けなければならない。

(事業年度)

第7条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第8条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類は、毎事業年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更しようとする場合も、同様とする。

2 前項の書類は、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第9条 この法人の事業報告及び決算は、毎事業年度終了後3か月以内に、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類は、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事（以下「役員」という。）並びに評議員の名簿
- (3) 役員及び評議員の報酬等の支給基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要並びにこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第10条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則（平成19年内閣府令第68号）第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

第4章 加盟団体及び賛助会員

(加盟団体)

第10条の2 次の各号のいずれかに該当する団体は、この法人の加盟団体として加盟することができる。

- (1) 高松市においてスポーツを各競技別に統括する各種競技団体
 - (2) 高松市においてスポーツを地域単位で統括する団体
 - (3) 高松市において健康・レクリエーションに関する活動を行う団体
 - (4) 前3号に定めるもののほか、スポーツに関する事業を行う団体
- (加盟手続)

第10条の3 この法人の加盟団体になろうとする団体は、あらかじめ理事会の決議を経なければならない。

(負担金の納入)

第10条の4 加盟団体は、理事会において別に定める負担金を毎年納入しなければならない。

(脱退等)

第10条の5 加盟団体が脱退しようとするときは、その理由を付して脱退届を会長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。

2 加盟団体が第10条の2に規定する要件に該当しなくなったとき又は加盟団体として不適当であると認められるときは、理事会の決議によって脱退させることができる。

3 前3条に規定するもののほか、加盟団体の加盟及び脱退等に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

(賛助会員)

第10条の6 この法人に、賛助会員を置くことができる。

2 賛助会員について必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第5章 評議員

(評議員の定数)

第11条 この法人に評議員5名以上17名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第12条 評議員の選任及び解任は、評議員選定委員会（以下「委員会」という。）において行う。

2 委員会は、評議員1名、監事1名、事務局員1名、次項の定めに基づいて

選任された外部委員 2 名の合計 5 名で構成する。

3 委員会の外部委員は、次のいずれにも該当しない者を理事会において選任する。

(1) この法人又は関連団体（主要な取引先及び重要な利害関係を有する団体を含む。以下同じ。）の業務を執行する者若しくは使用人

(2) 過去に前号に規定する者となったことがある者

(3) 第 1 号又は前号に該当する者の配偶者、3 親等内の親族、使用人（過去に使用人となった者も含む。）

4 委員会に提出する評議員候補者は、理事会又は評議員会がそれぞれ推薦することができる。委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

5 委員会に評議員候補者を推薦する場合には、次の事項のほか、当該候補者を評議員として適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

(1) 当該候補者の経歴

(2) 当該候補者を候補者とした理由

(3) 当該候補者との法人及び役員並びに評議員との関係

(4) 当該候補者の兼職状況

6 委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の 1 名以上が出席し、かつ、外部委員の 1 名以上が賛成することを要する。

7 委員会は、前条で定める評議員の定数を欠くこととなるときに備えて、補欠の評議員を選任することができる。

8 前項の場合には、委員会は、次の事項も併せて決定しなければならない。

(1) 当該候補者が補欠の評議員である旨

(2) 当該候補者を 1 名又は 2 名以上の特定の評議員の補欠の評議員として選任するときは、その旨及び当該特定の評議員の氏名

(3) 同一の評議員（2 名以上の評議員の補欠として選任した場合にあっては、当該 2 名以上の評議員）につき 2 名以上の補欠の評議員を選任するときは、当該補欠の評議員相互間の優先順位

9 第 7 項の補欠の評議員の選任に係る決議は、当該決議後 4 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまで、その

効力を有する。

10 評議員のうち、理事のいずれか1名及びその配偶者又は3親等内の親族その他特別の関係にある者（以下「親族等」という。）の合計数若しくは評議員のいずれか1名及びその配偶者等の合計数が、評議員総数（評議員現在数）の3分の1を超えてはならない。

11 評議員に異動があったときは、2週間以内に、主たる事務所の所在地において変更の登記をし、遅滞なく、その旨を香川県知事に届け出なければならない。

（評議員の任期）

第13条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。ただし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了するときまでとする。

3 評議員は、第11条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

（評議員の報酬等）

第14条 評議員は、無報酬とする。

2 評議員には、その職務を執行するために要する費用を弁償することができる。この場合の支給基準については、評議員会の決議により別に定める。

第6章 評議員会

（構成）

第15条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

（権限）

第16条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 役員を選任又は解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認
- (4) 定款の変更

- (5) 残余財産の処分
- (6) 基本財産の処分又は除外の承認
- (7) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第17条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3か月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時評議員会を開催する。

(招集)

第18条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

第19条 評議員会の議長は、当該評議員会において、出席評議員の互選により選出する。

(決議)

第20条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第24条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(決議の省略)

第21条 理事が評議員会の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき議決に加わることができる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

(報告の省略)

第22条 理事が評議員の全員に対して評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、当該事項を評議員会に報告することを要しないことにつき、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第23条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 前項の議事録は、議長及び評議員会に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名が、記名押印する。

第7章 役員

(役員の設定)

第24条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 5名以上15名以内

(2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を会長、2名以内を副会長、2名以内を専務理事とする。

3 前項の会長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(平成18年法律第48号)上の代表理事とし、同項の専務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第25条 役員は、評議員会の決議によって選任する。

2 会長、副会長及び専務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 理事のうち、理事のいずれか1名及びその親族等の合計数が、理事総数(理事現在数)の3分の1を超えてはならない。

- 4 監事は、この法人の理事（親族等を含む。）及び評議員（親族等を含む。）並びにこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特別の関係があつてはならない。
- 5 他の同一団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある理事の合計数は、理事総数（理事現在数）の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。
- 6 役員に異動があつたときは、2週間以内に、主たる事務所の所在地において変更の登記をし、遅滞なく、その旨を香川県知事に届け出なければならない。

（理事の職務及び権限）

第26条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の職務を執行する。

- 2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副会長は、会長を補佐する。
- 4 専務理事は、会長及び副会長を補佐し、この法人の業務を分担執行する。
- 5 会長及び専務理事は、毎事業年度に4か月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第27条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員任期）

第28条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。ただし、再任を妨げない。
- 3 補欠又は増員により選任された理事又は監事の任期は、前任者又は他の現

任者の残任期間とする。ただし、当該監事の選任時が他の在任監事の選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結のときを経過しているときは、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。

4 理事又は監事は、第24条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第29条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第30条 役員は、無報酬とする。ただし、会長、専務理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

2 役員には、その職務を執行するために要する費用を弁償することができる。この場合の支給基準については、評議員会の決議により別に定める。

第8章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第32条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長及び専務理事の選定並びに解職

(招集)

第33条 理事会は、会長が招集し、議長を務める。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、会長があらかじめ指定した副会長が理事会を招集する。

(決議)

第34条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

(決議の省略)

第35条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第36条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 理事会に出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第9章 名誉会長、顧問及び参与

(名誉会長、顧問及び参与)

第36条の2 この法人に、名誉会長、顧問及び参与を置くことができる。

2 名誉会長は、評議員会の決議をもって推戴する。

3 顧問は、会長が委嘱する。

4 顧問は、会長の諮問に応じるものとする。

5 参与は、評議員会の推薦した者を会長が委嘱する。

6 参与は、評議員会の諮問に応じるものとする。

(報酬等)

第36条の3 名誉会長、顧問及び参与は、無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。

2 前項ただし書に規定する事項に関し必要な事項は、評議員会の決議を経て、会長が定める。

第10章 専門部会

(専門部会)

第36条の4 この法人の事業を遂行するため、専門部会を置く。

2 専門部会は、理事会の決議により第4条に掲げる事業について計画、調査

及び研究等を行う。

- 3 専門部会の名称、役員その他必要な事項については、理事会の決議により別に定める。

第 1 1 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 3 7 条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

- 2 前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 1 2 条についても適用する。

(解散)

第 3 8 条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第 3 9 条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から 1 か月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成 1 8 年法律第 4 9 号。以下「認定法」という。）第 5 条第 1 7 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第 4 0 条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、国若しくは地方公共団体又は認定法第 5 条第 1 7 号に掲げる法人であつて租税特別措置法（昭和 3 2 年法律第 2 6 号）第 4 0 条第 1 項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

第 1 2 章 公告の方法

(公告の方法)

第 4 1 条 この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第 1 3 章 事務局

(事務局)

第42条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長とその他必要な職員を置く。

3 事務局長は、会長が理事会の承認を得て任免する。

4 前項以外の職員は、会長が任免する。

5 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第14章 補則

(委任)

第43条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

附 則 (平成25年4月1日登記)

(施行期日)

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律(平成18年法律第50号。次項において「整備法」という。)第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

(事業年度の特例措置)

2 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第7条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

(最初の役員)

3 この法人の最初の代表理事は、高橋 久夫とする。

(最初の評議員)

4 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

池添 千恵子、岩佐 孝、大西 努、大西 等、川西 裕、勝又 正秀、
畑本 章子、桑嶋 教雄、高橋 良信、宮脇 啓

(既存規程等の効力)

5 この定款の施行の日前に、財団法人高松市スポーツ振興事業団寄附行為に基づき定められた規程又は議決された事項は、この定款に基づき定められた規程又は議決された事項とみなす。

附 則（平成 26 年 6 月 26 日）

この定款は、平成 26 年 6 月 26 日から施行する。

附 則（平成 27 年 4 月 27 日認定）

この定款は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 11 条第 1 項に定める行政庁の認定を受けた日から施行する。

附 則（平成 29 年 4 月 14 日）

この定款は、平成 29 年第 1 回臨時評議員会の決議があった日から施行する。

附 則（平成 30 年 2 月 8 日認定）

この定款は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 11 条第 1 項に定める行政庁の認定を受けることを停止条件とし、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 3 月 13 日）

この定款は、令和 2 年第 1 回臨時評議員会の決議があった日から施行し、同年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 3 年 6 月 14 日）

この定款は、令和 3 年度第 2 回臨時評議員会の決議があった日から施行する。